

ポスター発表

[P-29-48_57] Poster session

Fri. Mar 29, 2019 9:00 AM - 3:30 PM ポスター会場・展示 (大教室)

[P29-57]腸管 Tregを誘導する *Lactobacillus murinus*の Treg誘導成分探索○島津 朋之¹, 岩倉 洋一郎² (1.宮城大食産, 2.東理大生命研)

これまでβグルカンの認識受容体である Dectin-1 を欠損したマウス腸内において *Lactobacillus murinus*が増殖し、これが腸管樹状細胞への機能発揮から制御性 T細胞(Treg)を増加させ、マウス DSS誘導性大腸炎を軽減することを明らかにしている。本研究は、*L. murinus*の Treg誘導に関与する成分、そして受容体を明らかにする事を目的としている。*L. murinus*による Tregの誘導が代謝産物によるものなのか明らかにするために、無菌マウスに死菌体を投与したところ、大腸において誘導性 Treg(iTreg)の増加が認められ、菌体成分が誘導に関わることが明らかになった。また、TGFβ存在下で Tregの増加に関与する IL-10の発現量が特に増加した。そこで、in vitroにおいて IL-10の産生に関わる受容体探索を行ったところ、TLR2の関与が示唆された。また、Syk阻害剤の添加によっても IL-10の産生が強く阻害され、C型レクチン受容体の関与が認められた。これまで、TLRとC型レクチン受容体の相互作用が IL-10産生を増強することが報告されており、現在具体的な受容体の探索を行っている。本研究により、乳酸菌上に存在するリガンドの特定、TLRとC型レクチンの協調作用の詳細、そして iTregの分化誘導にどのように関わるのかを明らかにし、乳酸菌による腸管炎症制御を目指す。